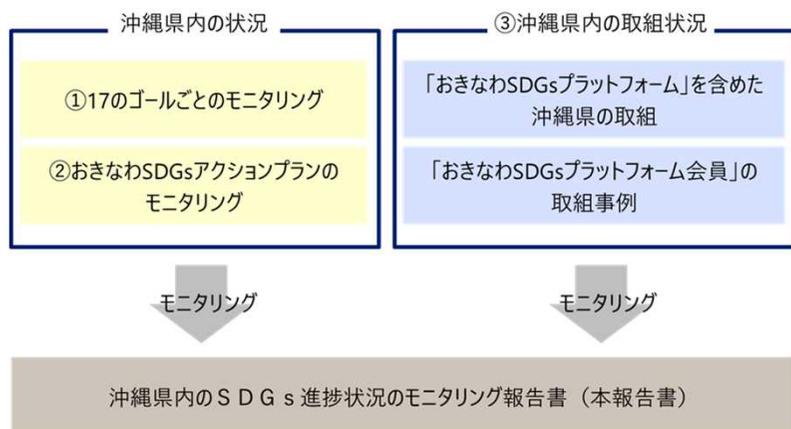


2023年度（令和5年度）沖縄県SDGsモニタリング報告書 概要版

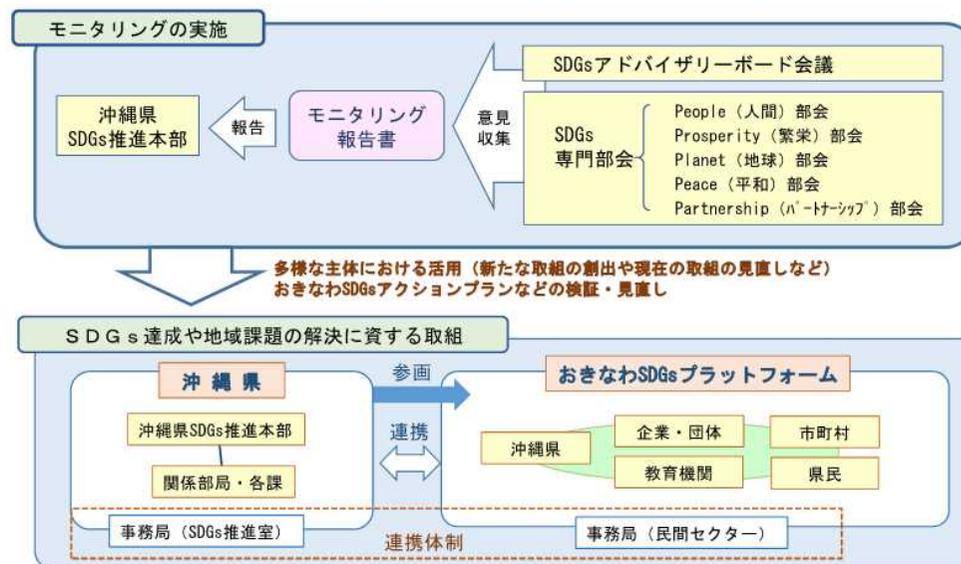
1 SDGs進捗状況のモニタリングを実施する背景

- (1) SDGsの主要5原則に「透明性と説明責任」が位置づけられている。
- (2) 国の持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」において、地方自治体の期待する取組として、「進捗を管理するガバナンス手法を確立すること」及び「情報発信と成果の共有としてSDGs達成に向けた取組を的確に測定すること」、「ローカル指標を設定すること」が位置づけられている。
- (3) 「沖縄県SDGs実施指針」では「取組状況等のモニタリング（進捗のフォローアップ）を実施すること」、「SDGs達成に向けた進捗状況等を、多くの人々の参画のもと透明性をもって点検し、フィードバックを図ること」を位置づけている。
- (4) 上記を踏まえ、「沖縄県内の状況（設定した指標に基づく評価）」と「沖縄県内の取組状況（取組事例の共有）」の2つの視点から「沖縄県内のSDGs進捗状況のモニタリング報告書」をとりまとめた。



2 モニタリングのプロセス

- (1) 沖縄県内の状況
 - ① 17のゴールごとのモニタリング
全国値と比較可能な「共通指標」と地域特性を補完する「ローカル指標」を設定。年次でデータ取得が可能なものを選定して評価した。
（国連や内閣府等が提案しているローカル指標を参考に選定）
 - ② 「おきなわSDGsアクションプラン」のモニタリング
「12の優先課題」の「SDGs推進の目標」に位置づけた「ローカル指標」について評価した。
- (2) 沖縄県内の取組状況
おきなわSDGsプラットフォームや沖縄県の取組、プラットフォームの会員の活動を取りまとめた。
- (3) モニタリングの推進体制
「SDGs専門部会」や「SDGsアドバイザーボード」の意見を収集しながら報告書を取りまとめ、「沖縄県SDGs推進本部」において報告する。報告後に報告書を公表。様々なステークホルダーにおける活用が期待される。



2023年度（令和5年度）沖縄県内のSDGs進捗状況のモニタリング報告書 概要版

3 17のゴールごとのモニタリング

(1) 設定した81指標の内、前進した指標が24件（30%）、横ばいの指標が40件（49%）、後退した指標が17件（21%）であった。

(2) 上記の進捗状況や右図の結果は選定した指標が変わると大きく変化することに留意が必要である。

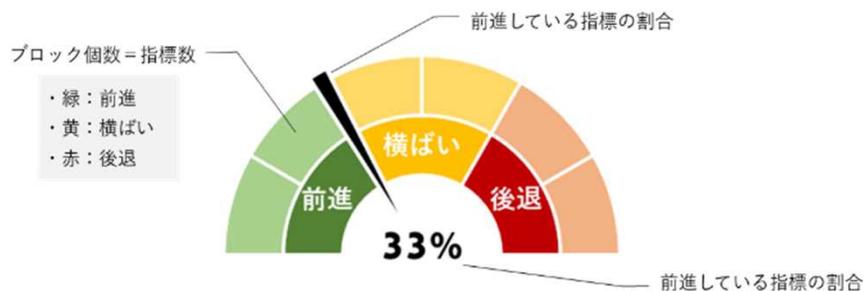
※当該結果は沖縄県内のSDGsの進捗状況の評価を確定するものではなく、今回選定した指標により評価した結果である。

(3) 各指標ごとの評価結果は報告書に記載している。

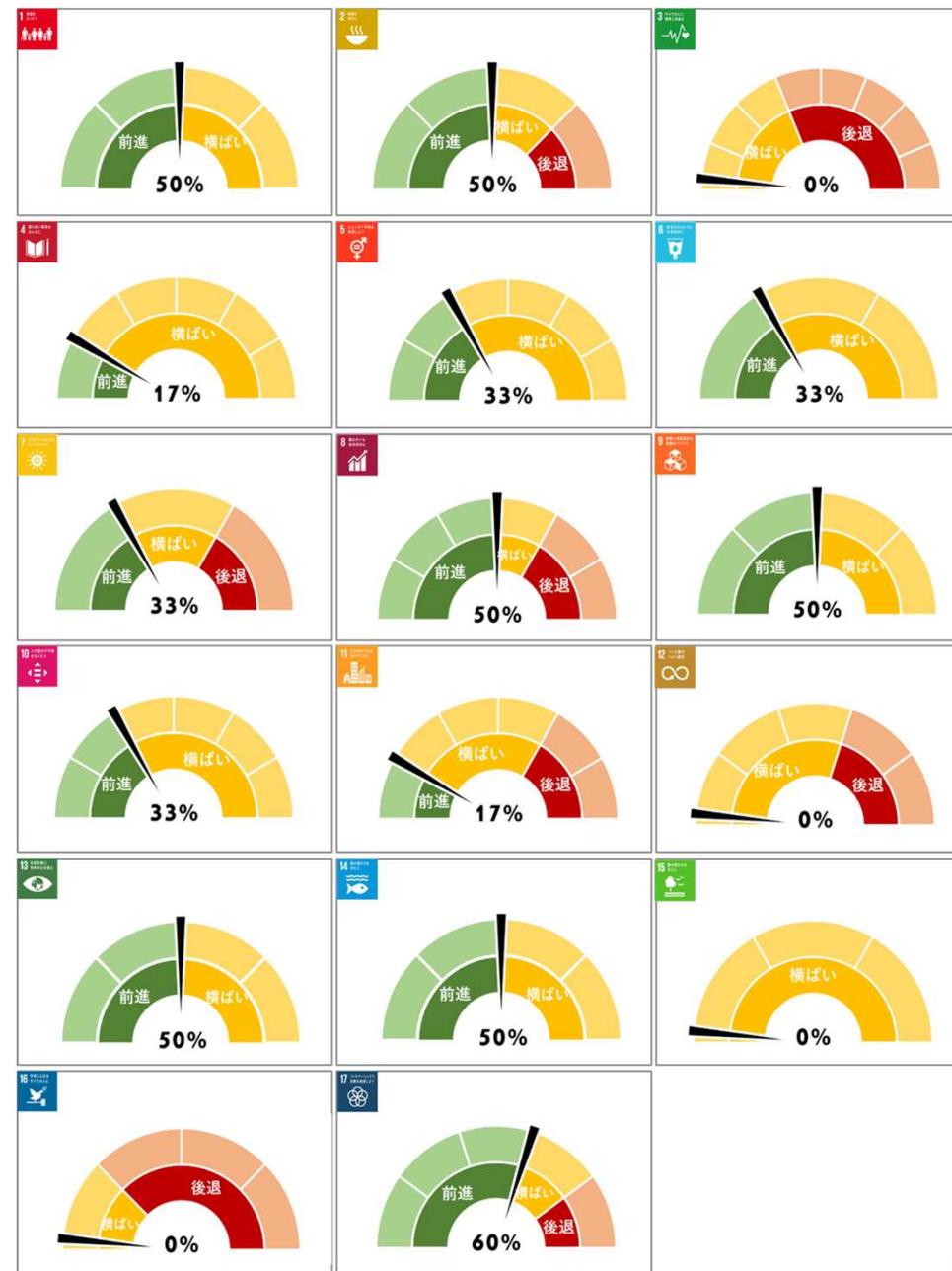
設定した指標の進捗状況（前年比）の評価基準一覧

評価	表示	「進捗状況」の評価基準
前進		前年値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が+5.0%以上（前進の方向を+として評価）
横ばい		前年値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%より大きく5.0%未満
後退		前年値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%以下（後退の方向を-として評価）

進捗状況のパネル表示の概要



17のゴールごとの進捗状況（前年比） ※数値は前進した指標の割合



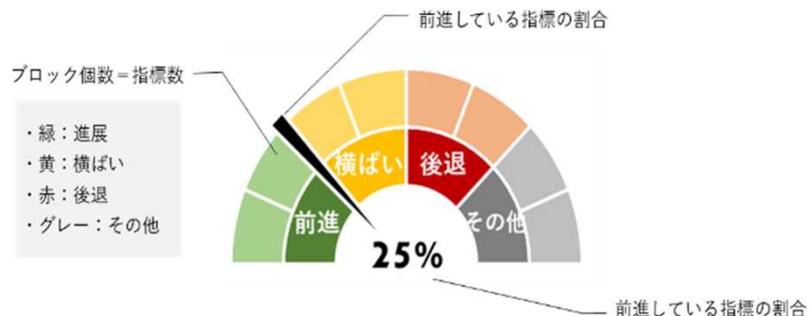
4 「おきなわSDGsアクションプラン」のモニタリング

(1)「おきなわSDGsアクションプラン」において、以下の12の優先課題ごとに、「SDGs推進の目標」、「ローカル指標」を設定しており、この指標に基づき評価を行った。

<12の優先課題>

- 性の多様性（LGBT等）、障がいの有無、国籍など、互いの違いを認め合い、一人ひとりが大切にされ、あらゆる場所で活躍できる社会の実現（多様性の尊重、個人の尊厳）
- 医療・福祉の充実、健康長寿と生きがい、子どもを貧困から守る子育てしやすい暮らし
- 地域への誇り（しまくとぅばの普及・推進等）と夢・目標をもてる学びの確保、教育の充実
- 基幹産業として持続可能で責任ある観光（サステナブル／レスポンスブルツーリズム）の推進、観光との連携・相乗効果等も活用した産業振興（農林水産業におけるブランド化等）、県経済の基盤となる安定的な雇用
- 日本とアジア・太平洋の架け橋となる物流・情報・金融の拠点
- 気候変動に適應する強靱なインフラと交通網の整備
- 多様な生物・生態系や世界自然遺産を含む自然に囲まれた環境の保全、エコアイランドの実現、自然と調和したライフスタイル
- 基地から派生する諸問題の解決の促進、平和を希求する沖縄として世界平和への貢献・発信
- 共助・共創型の安全・安心な社会の実現
- ユイマール（相互扶助）の継承、人の和・地域の和
- 地域・世代・分野・文化等を越えた多様な交流と連携の創出
- 世界の島しょ地域における技術・経験の共有と国際貢献・グローバル・パートナーシップ

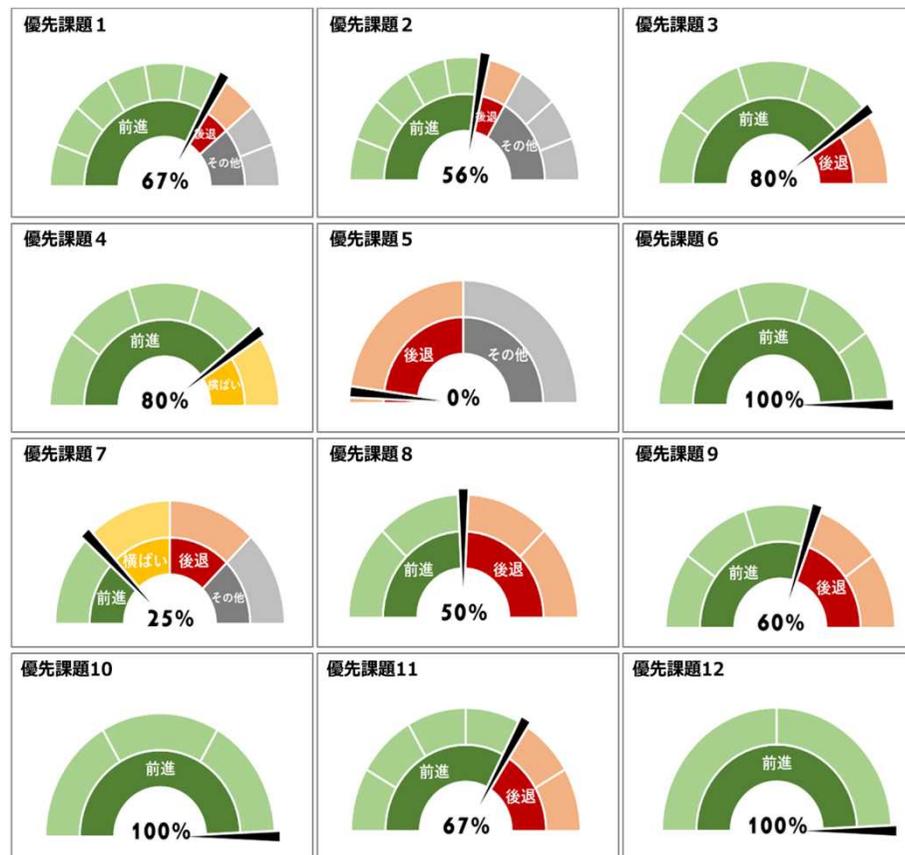
進捗状況のパネル表示の概要



全体の進捗の状況

「SDGs推進の目標」項目数	ローカル指標数	R5年度進捗状況（対基準値）				特記事項
		前進	横ばい	後退	その他	
39項目	59項目	39項目 (66.1%)	2項目 (3.4%)	11項目 (18.6%)	7項目 (11.9%)	その他指標とは、基準値取得以降データ未更新の指標等。

12の優先課題ごとの状況 ※数値は前進した指標の割合



5 沖縄県内のSDGs活動状況

(1)「おきなわSDGsプラットフォーム」を含めた沖縄県の取組

県では2022年度から2031年度の振興企画である「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」にSDGsを取り入れ、総合的に施策を展開している。

様々な主体とともにSDGsを推進する指針「沖縄県SDGs実施指針」やSDGs推進の目標やローカル指標などを取りまとめた「おきなわSDGsアクションプラン」を策定している。

これらに基づき、SDGsの普及、多様な主体の参画の促進、情報共有や連携促進に向けた支援などの取組を実施している。

2023年度の主な取組事例を以下に記載する。

①普及啓発の取組

県の広報番組、広報誌を通じたSDGs関連の発信
ラジオ番組による情報発信（12回）
県及び市町村向けSDGs研修
県民参加型イベント開催（みんなでSDGs 3件） 等

② SDGs参画促進

「おきなわSDGsパートナー」登録制度では935団体が登録されている（R6.1.31時点）。加えて、SDGs経営を実践する団体等を「おきなわSDGsプラチナパートナー」として認証する制度を創設し11団体を認証した（R6.1.31時点）。



おきなわSDGs
プラチナパートナー

③ 情報共有や連携促進に向けた支援

「おきなわSDGsプラットフォーム」のポータルサイトにおける会員情報発信の支援の他、セミナー4回、交流会4回を開催した。

「プロジェクトチーム」の募集を開始し、コーディネーターを中心に各取組の提案の相談対応を行っている。



ポータルサイト

(2)「おきなわSDGsプラットフォーム」会員の取組事例

県民、企業・団体、市町村、県などが参画する「おきなわSDGsプラットフォーム（R6.1.30時点 1,465会員）」において、情報共有を行った会員の取組事例の中から3件紹介する。

① 沖縄まるごとゴミ拾い（沖縄まるごとゴミ拾い実行委員会）

県内でクリーン活動を実施する40団体が連携して、本島・離島の各地でゴミ拾いを実施した（延べ1,194名参加）。首都圏のクリーンイベントと連動して開催した。



② 農業と福祉をつなぐ架け橋となって、誰ひとり取り残さない社会へ（農林中央金庫那覇支店）

農林中央金庫那覇支店は農福連携のマッチング支援を実施している。写真は農業生産法人勝山シークワサーと3つの福祉施設がマッチングが実現し、収穫している様子。



③ 世界一サンゴと人にやさしい村の持続可能な地域づくり（恩納村）

うんな中学校で恩納村の地域課題の解決に向けた「UNNA魂プロジェクト」を実施。村、企業が連携して特産品を使った飲料やお菓子、海にやさしい日焼け止めを開発した。



商品化された「パッと酢まいる」